

令和6年第6回
教育委員会定例会教育長報告

令和6年6月21日（金）

- | | | |
|---|--|-----|
| 1 | 令和6年第2回市議会定例会一般質問対応状況について | 資料1 |
| 2 | 校長・教育管理職・主任教諭選考申込状況について | 資料2 |
| 3 | 令和6年度武蔵村山市立学校学校評価（計画）について | 資料3 |
| 4 | ～いきいきわくわく狭山丘陵ウォーク～第47回武蔵村山市
歩け歩け大会の開催結果について | 資料4 |
| 5 | その他 | |

令和6年第2回市議会定例会一般質問対応状況について

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
1 清 水 議 員 (新政会)	読書バリア フリーの推 進について	文字を読むことが 困難な方に、情報格差 が生じぬよう、読書バ リアフリーの推進に ついて、①市立図書館 について、	視覚障害者等の読書環境の整備の推 進に関する法律、いわゆる読書バリア フリー法におきましては、障害者の権 利に関する条約や障害者基本法の理念 にのっとり、障害の有無にかかわら ず全ての国民が等しく読書を通じて文 字・活字文化の恵沢を享受することが できる社会の実現に寄与することを目 的としているところでございます。 本市の市立図書館では、点字図書や 大活字本などのバリアフリー図書を蔵 書しているほか、令和4年10月に開 設した「むさしむらやま電子図書館」に おいては、文字サイズの拡大や内容を 音声で聴くことができる電子書籍を御 利用いただけます。
		②学校図書館につ いて伺う。	学校図書館では、視覚障害のある児 童・生徒に向けた取組は行っておりま せんが、本に親しんでもらうための工 夫として、点字図書や大活字本など を取り扱っております。また、今後は1人 1台端末を活用し、市立図書館の電子 書籍の活用を周知してまいります。
	発達検査の 充実につい て	発達検査がなかな か受けられず、支援に つながるまでに時間 がかかる。早期発見・ 早期支援は重要であ るため、検査機関、検 査内容の充実につい て伺う。	教育委員会では、教育相談室におい て、主に特別支援学級への就学や、特別 支援教室への入級を希望される場合 に、WISCや田中ビネーの検査を実 施しております。教育委員会といたし ましても、早期発見・早期支援の重要性 は認識しておりますので、相談を受け た場合には医療機関におつなぎしてい きたいと考えております。
2 鈴 木 議 員 (市民の術)	ラーケーシ ョンについ て	新しい学校の休暇 の形であるラーケー ションが一部の自治 体で先行して行われ ている。導入した場合 のメリット・デメリッ トについて、市教委の 見解を伺う。	ラーケーションを導入した場合のメ リットといたしましては、親子で過 ぎず時間が増えること、家庭において 様々な学びが得られることが挙げられ ます。 デメリットといたしましては、この 制度を利用して学校を休んだ児童・生 徒が、この間行う予定であった学習を 当該家庭で補習していただくなどの対 応が必要となります。また、この制度を

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
2 鈴 木 議 員 (市民の力)	ラーケーシ ョンについ て		活用して休暇を取得できる家庭とできない家庭があると考えられ、各家庭の経済的な事情が明らかになってしまうという懸念があります。 さらに、学校においては、各家庭が休暇を取得することにより、個々の事情に対応していくことが必要となるため、教員の負担が増えることも考えられます。
3 木 村 議 員 (市民の力)	公共施設の 利用にかか る減免制度 について	市民団体が公共施設を利用する際の減免制度で、特に青少年の健全育成のための活動等に対する取扱いの現状と、減免制度の在り方について伺う。	学習等供用施設等の使用料につきましては、各施設の設置条例において、減免規定を設けているところでございますが、年齢により区分した減免規定は設けておりません。 また、減免制度の在り方につきましては、武蔵村山市第七次行政改革大綱において、受益者負担の適正化を図るため、公の施設使用料見直し基本方針に基づき定期的に使用料の見直しを図ることとしております。
4 内野和典 議 員 (新政会)	中学校職場 体験につい て	①各校の取組状況と効果について伺う。	中学校職場体験につきましては、キャリア教育の一環として、市内中学校第2学年を対象に3日程度実施しております。職業体験を通して、直接働く方々と接し、実地的な知識や技術・技能に触れることで、学ぶことや働くことの意義を理解することができる教育活動であると考えております。
		②事業実施に当たり、受入側の協力や受入先の新規開拓は大切であるが、その2点における取組や課題を伺う。	職場体験の受入先につきましては、学区域の店舗だけでなく、市の公共施設や大型商業施設などにも依頼をしているところでございます。学校規模によって受入人数の調整や、店舗、施設によっては受入が難しい時期があることが課題となっております。
5 土 田 議 員 (新政会)	子どもたち へのスポー ツ振興につ いて	スポーツ都市宣言から10年が経過し、スポーツ振興の各種施策に取り組んでいるが、子どもの体力低下やスポーツ離れなどの課題は多い。本市の現状と課題について伺う。	現状につきましては、本市に限らず、全国的に見ても生活環境の変化に伴い、親世代と比較して子どもたちの体力は低下傾向にあり、また、スポーツ離れが進んでいると認識しているところでございます。 そこで、体力の向上やスポーツの重要性に関する意識の醸成やその取組が重要な課題であると考えていることから、体育の時間をはじめ、教育活動全体

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
5 土 田 議 員 (新政会)	子どもたち へのスポー ツ振興につ いて		を通じて、子どもたちの体力向上に向 けた指導法の工夫・改善に取り組むと ともに、「少年・少女スポーツ大会」を 継続的に開催し、子どもたちが気軽に スポーツを楽しむ機会が提供できるよ う努めてまいります。
6 田 村 議 員 (日本共産党)	学校開放事 業における エアコン代 の無償化を 求めて	①小・中学校体育館 を利用する団体数及 び小・中学生の団体 数。	小・中学校の屋内運動場を使用する 団体数につきましては、令和6年4月 末日の時点で、106団体が登録して おります。 また、団体の主な構成員が小・中学生 となっている団体数は34団体でご ざいます。
		②近隣市でエアク ン設置している市は。 そのうちエアコン代 を徴収しない市は。	近隣市で屋内運動場の空調設備を設 置している市は、立川市、昭島市、国立 市、東大和市及び本市で、そのうち、空 調設備の使用料が規定されていない市 は、昭島市、国立市及び東大和市とな っております。
7 内野直樹 議 員 (日本共産党)	教職員の長 時間労働解 消は定数増 や受持ち時 間の削減で	①令和5年度の教 員不足数。	小・中学校の令和5年度4月7日時 点での教員不足数につきましては、小 学校2人、中学校2人、計4人でご ざいます。
		②1日8時間以上 を残業時間とした場 合の残業代と給特法 との差額は。	給与支給者である東京都に確認した ところ、試算はできないとのことで ございました。
		③教員の1日の受 持ち授業時数は。	教員の1日の受持ち授業数につしま しては、文部科学省が行った令和4年 度学校教員統計調査を基に算出した しますと、小学校では5時間、中学校では 4時間となっております。 教育委員会といたしましては、引き 続き教員の負担軽減策を推進してまい ります。
8 藤 枝 議 員 (日本共産党)	学校トイレ に生理用品 を	26市における設 置状況。	学校トイレにおける生理用品の設置 状況につきましては、令和6年2月末 日の時点で他市が実施した調査では、 全校で設置しているのは14市、一部 の学校で設置しているのは本市を含め て5市、未設置が7市と認識しており ます。
		②本市の小・中学校 別の設置状況。	市内の学校では、大南学園第四中学 校の全てのトイレに設置しておりま す。

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
8 藤 枝 議 員 (日本共産党)	学校トイレ に生理用品 を	③子どもたちの意 見は聞いているのか。	生理用品の設置につきまして、児童・ 生徒に意見を聞いたことはございませ ん。
9 小部山 議 員 (日本維新の会)	市立図書館 のオンライ ンデータベ ース検索導 入、歴史民俗 資料館デー タベース化 推進につい て	①市立図書館で各 種オンラインデー タベース検索を利用 できる環境整備につ いて伺う。	市立図書館での各種オンラインデー タ検索の導入につきましては、今後、研 究してまいりたいと考えております。
		②歴史民俗資料館 資料のデータベ ース化推進、公開につ いて伺う。	歴史民俗資料館資料のデータベ ース化につきましては、武蔵村山市第五次 情報化基本計画に基づいて、市が所蔵 する歴史資料を市民がいつでもどこか らでも閲覧できるようにするととも に、保存記録として活用が図られるよ う資料のデジタルアーカイブ化を現在 検討しております。
10 遠 藤 議 員 (公明党)	中央図書館 の設置につ いて	①イオンモール増 床計画場所内に中央 図書館を併設した場 合、本市のメリットを 伺う。	令和6年3月29日付け広資料第2 19号でお知らせしましたとおり、中 央図書館等の機能を併せ持った（仮称） 生涯学習センターにつきましては、公 共施設等総合管理計画の次期計画を策 定する中で、既存の公共施設の最適配 置に向けた検討と合わせて、その在り 方についても検討することとしており ます。 なお、大型商業施設内に併設された 場合に考えられる一般的なメリットと しましては、例えば、買い物の行きや帰 りに図書館に立ち寄ることも可能とな るため、利用者の利便性の向上につな がることなどが考えられます。
		②イオンモールに 情報交換を含め話し 合うことについて の見解を伺う。	
11 長 堀 議 員 (新政会)	市立図書館 の利便性向 上に向けた 取組につ いて	①開館時間の拡充 について考えを伺う。	市立図書館の開館時間につきまして は、午前10時から午後5時までとな っておりますが、雷塚図書館のみ、毎週 木曜日は午後7時まで開館しており、 また、毎年7月と8月の2か月間は、開 館時間を午前9時からとしておりま す。今後につきましては、他市の状況等 を参考にしつつ、研究してまいりたい と考えております。
		②生涯学習センタ ーの検討が先送りさ れたが、市立図書館 の今後の方向性につ いて考えを伺う。	令和6年3月29日付け広資料第2 19号でお知らせしましたとおり、中 央図書館等の機能を併せ持った（仮称） 生涯学習センターにつきましては、公 共施設等総合管理計画の次期計画を策

質 問 者	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 要 旨
11 長 堀 議 員 (新政会)	市立図書館 の利便性向 上に向けた 取組につい て		定する中で、既存の公共施設の最適配置に向けた検討と合わせて、その在り方についても検討することとしておりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。

校長・教育管理職・主任教諭選考申込状況について

(単位：人)

	令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
校 長 選 考	5	2	3	2	4	1
教育管理職 A 選 考	0	0	0	0	1	1
教育管理職 B 選 考	3	1	1	0	5	1
教育管理職 C 選 考	0	1	1	0	1	0
主 任 教 諭 選 考	1 8	5	2 7	7	3 4	1 1

※ 令和 6 年 6 月 1 1 日時点

令和6年度

武蔵村山市立学校
学校評価（計画）

令和6年6月21日

武蔵村山市教育委員会

目 次

第一小学校	-----	1
第二小学校	-----	2
第三小学校	-----	3
第八小学校	-----	4
第九小学校	-----	5
第十小学校	-----	6
雷塚小学校	-----	7
小中一貫校村山学園	-----	8
小中一貫校大南学園第七小学校	-----	9
小中一貫校大南学園第四中学校	-----	10
第一中学校	-----	11
第三中学校	-----	12
第五中学校	-----	13

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

【経営理念】「児童自らが学びに向かいながら、共に生きることに喜びを感じ、誰一人取り残さない学校を創造する」を実現させるために次の３点を柱とし、推進する。 （１）児童の自ら学びに向かう力を育てる学校（自立） （２）児童の健やかな成長のために、共感し、協働する学校（共生） （３）児童の思いや願いが実現できる学校（創造）	評価		【学校運営協議会・会長】 高 橋 勉
	A	十分に達成している。（80%以上）	学校運営協議会（学校評価分）
	B	概ね達成している。（60%以上）	第１回 令和６年 ４月２５日（木）
	C	あまり十分でない。（40%以上）	第２回 令和６年 ８月２９日（木） 第３回 令和７年 ２月１３日（木）

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	学習内容の確実な定着と充実を全児童に対して図る。 【学校経営方針 3 の(7)】	誰一人取り残さないで、全員を学びに立ち向かわせる。	・自分から進んで授業に取り組んでいる児童が 8 0 % ・自分の子は、自分から進んで授業に取り組んでいると感じている保護者が 8 0 %						
		ねらいを明確にし、分かりやすい授業をする。朝学習や家庭学習等を通して、読み・書き・計算の反復練習に取り組む。	【全校共通】市学力調査にて、（小 5 ・中 2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小 4 ・中 1 時）を上回っている。						
豊かな心の育成	持続可能な社会づくりに向けた意欲と行動を育成する。 【学校経営方針 3 の(1) (2)】	遊びを通して、みんなと関わる楽しさを知り、時にはあるけんかも一つの大事な経験として、相手を思う気持ちちを養う。	・休み時間に校庭でみんなと仲良く遊んでいる児童が 8 0 % ・自分の子が休み時間にみんなと仲良く遊んでいると感じている保護者が 8 0 %						
		音楽集会の活動を通して、みんなと歌う楽しさを知り、互いの声を響かせ、豊かな情操を養う。	・音楽集会や音楽、学級活動などでみんなと楽しく歌っている児童が 8 0 % ・自分の子が音楽集会や音楽、学級活動などでみんなと楽しく歌っていると感じている保護者が 8 0 %						
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の確立し、心身共に健康な体をつくる。 【学校経営方針 3 の(5)】	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」の推進をし、健康な体づくりを目指す。	・自らを振り返り、改善を図るために健康的な生活習慣を送れた児童が 8 0 % ・自分の子が継続して健康的な生活習慣を身に付けようとしていると感じている保護者が 8 0 %						
		運動やスポーツへの興味・関心を広め、体力を高める活動の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小 5 ・中 2）において総合評価「C」以上の割合が 6 0 % 以上又は総合評価「C」以上の割合が令和 5 年度調査との比較で向上している。						
学習の充実	様々な人たちと関わり合いながら、自ら行動する力を養う。 【学校経営方針 3 の(3)】	各学年で生活科や総合的な学習の時間を通して、まちづくり学習の取り組み、その成果を発信する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答が、7 0 % 以上						
信頼される学校づくり	日常の学校生活の中で規範意識を高めながら、より良い生活環境や人間関係を構築する。 【学校経営方針 3 の(4)】	5 つの生活習慣（校帽、挨拶、靴のかかとを踏まない・揃える、イスを引く、水道の蛇口は下にする）にこだわり、年間を通して定着を図る。	・ 5 つの生活習慣が身に付いている児童が 8 0 % ・自分の子に 5 つの生活習慣が身に付いていると感じている保護者が 8 0 %						
	誰一人取り残さない学校を創る。 【学校経営方針 3 の（6）(8)】	児童に対して、受容的な接し方を教員が身に付け、児童の言葉に耳を傾け、褒める・叱るのメリハリのある指導を行う。	・教員が児童の相談にのり、メリハリのある指導をしていると感じている児童が、85% ・教員が児童の相談にのり、メリハリのある指導をしていると感じている保護者が 8 5 %						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和6年度学校自己評価及び学校関係者評価表

【経営理念】
「児童と教師が自分らしく生き生きと学び、共に成長し、一人一人が明るく輝く学校」を目指し、その創造のために以下の点を掲げ、推進する。
（１）児童一人一人が自信をもち、学びのエンジンを動かして、伸びる喜びをつかむ。
（２）確かな自尊感情をもち、周りの人を大切にする。（自分が好き。みんなが好き）
（３）保護者・地域との協働により、児童の安心と安全が、保障される。

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

学校名：武蔵村山市立第二小学校 校長名：井口 洋
【学校運営協議会・会長】加藤 浩一
学校運営協議会（学校評価分）
第1回 令和6年5月31日（金）
第2回 令和6年9月 6日（金）
第3回 令和7年1月31日（金）

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	児童にとって分かりやすい授業を展開し、学習内容の確実な定着を図る。	日常的に語彙を豊かにするための取組を行い、考えを伝え合う場面を増やす。	・自分の考えを表現し合うことが楽しいと答えた児童の割合・85% ・自分の考えを伝え合うことができていると感じている保護者の割合・85%						
		チャレンジタイムや家庭学習（宿題）等を活用し、反復練習（読み・書き・計算）を強化していく。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
豊かな心の育成	「特別の教科 道徳」の授業を充実させる。読書活動の充実を図る。	写真や挿絵等の資料提示や補助発問等の工夫を図りながら実践をする。また、「考え、議論する」道徳を展開し、これからの思いや課題について考える時間を設けるようにする。	・自分の考えや他者への思いを深めることができた児童の割合・85% ・道徳の授業を通して、考えを振り返ったり、これからのことを考えたりしていると感じている保護者の割合・85%						
		ブックトークや読み聞かせ、貸し出しカード等の工夫を図り、学校図書館の本を年間50冊以上借りるとともに、心に残った本を3冊以上あげられるようにする。	学校図書館貸出数、50冊以上を達成し、かつ、心に残った本が3冊以上ある児童の割合・85%						
健やかな体の育成	基本的生活習慣の確立を図るとともに、体力の向上を図る。	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」の推進をし、健康な体づくりを目指す。	・自らを振り返り、改善を図るために実践できた児童の割合 ・自分の子が継続して基本的な生活習慣を身に付けようとしていると感じている保護者の割合						
		個や能力に応じた場の設定等、体づくり運動の充実を図り、運動量を十分に確保できる指導の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習	体験活動や交流学習に取り組む	みかん農園、村山大島紬などに関するまちづくり学習や、縦割り班活動や高校生との交流に取り組み、自尊感情を高める。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
安心安全な学校	安全・安心な学校づくりを行うとともに、適時適切な情報発信に努める。	安全指導計画を基に避難訓練や登校班指導、交通安全教室、セーフティ教室等の安全教育を充実させる。	・危険を予測し、回避できる児童の割合・85% ・自分の子が危険を予測し、回避しようとしていると感じている保護者の割合・85%						
		保護者・地域に必要と思われる情報を適宜発信する。	学校からの情報発信に満足している保護者の割合・80%						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

【経営理念】 子供も大人も共に成長する学校を指針として、地域・保護者と協働して、確かな学力、健全で豊かな心と体の育成を目指す。	評価	
	A	十分に達成している。(80%以上)
	B	概ね達成している。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)

学校名：武蔵村山市立第三小学校	校長名：佐々木 琢
【学校運営協議会・会長】 宮下 秀邦	
学校運営協議会（学校評価分）	
第1回	令和6年12月19日（木）
第2回	令和7年 1月16日（木）
第3回	令和7年 2月20日（木）

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	基礎的・基本的な知識・技能の習得	・朝学習、家庭学習等において、一人1台端末（eライブラリ等）を活用したドリル学習を継続的に実施する。 ・東京ベーシックドリル（算数）の診断テストを実施し、個々の課題に応じた学習を行う。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている						
	主体的に学習する態度の育成	・授業や家庭学習等で ICT 機器（一人1台端末や提示用スクリーン等）を効果的に活用する。 ・授業や様々な活動において、目標設定、選択の機会を設定する。	学校評価アンケートの「ICT 機器等を効果的に活用し、児童が学習活動に主体的に学ぶように努めている。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
豊かな心の育成	規範意識及び社会性の向上	・「きまりを守ること」の意義について理解を深める指導をし、学校生活の中でその意義を実感できるような活動を充実させる。 ・全ての教職員が挨拶を実施し、保護者や地域とも連携して、挨拶の習慣の定着をめざす。	学校評価アンケートの「きまりをまもることの意義について理解を深める指導や教職員が率先して挨拶するなど、挨拶する習慣の定着に努めている。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
	児童一人一人を大切にした教育の推進	・呼名の仕方、掲示物等、児童一人一人を大切にした教育を全校あげて実践する。 ・ふれあい月間において、いじめについて児童が主体的に考える取組を実施する。 ・いじめアンケート等を活用し、いじめ・不登校の未然防止・早期発見の徹底を図る。	学校評価アンケートの「児童一人一人を大切にした教育活動を実践するとともに、いじめや不登校の未然防止・早期発見に努めている。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
健やかな体の育成	健康の増進と体力の向上	・体力テストにおいて、個々の目標を設定するなど、主体的に活動に取り組むよう工夫する。 ・丘の上スポーツタイム等の体育的活動の充実を図ると共に、体力向上に向けた授業の改善を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
	学校保健活動や健康課題の情報発信	・生活リズムチェック等を通して、児童の健康課題を把握する。 ・毎月の保健だより等を通じて、学校保健活動や健康課題の周知を行う。	学校評価アンケートの「児童の健康課題の把握に努めるとともに、保健だより等を通じて、学校保健活動や健康課題の周知に努めている。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
まちづくり学習の充実	まちづくり学習（ゼロカーボンシティチャレンジ教育）の推進	・第三中校区で取り組む環境教育（ゼロカーボンシティチャレンジ校）の推進。 ・子供の声を大切にした学びの展開。 ・地域の商業施設や、農園等と連携を図り、校内から市内へと活動の幅を広げる。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
	地域と共に歩む学校（保護者・地域との連携）	・地域未来塾開始から4年目、地域の人材（学生）を活用した事業の充実を図る。 ・学校運営協議会や三中校区教育推進協議会を中心に、保護者・地域と協働した活動を通じ、児童の健全育成を図る。	学校評価アンケートの「学校運営協議会などを中心に、保護者・地域と協働した活動を通じ、児童の健全育成を図っている。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
学校裁量	情報発信力の強化	ホームページ、学校公式 X（旧ツイッター）、一斉配信メール等を通じて、リアルタイムな情報発信に努める。	学校評価アンケートの「連絡メールやホームページ、学校公式 X 等で教育活動の様子を伝えるなど、積極的な情報発信に努めている。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和6年度学校自己評価及び学校関係者評価表

【経営理念】 人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校	評価		学校名：武蔵村山市立第八学校	校長名：牧 一彦
	A	十分に達成している。(80%以上)	【学校運営協議会・会長】 井上 一弘	
	B	概ね達成している。(60%以上)	学校運営協議会(学校評価分)	
	C	あまり十分でない。(40%以上)	第1回 令和6年 7月12日(金) 第2回 令和6年12月20日(金) 第3回 令和7年 3月 7日(金)	

項目	計画・取組			自己評価(令和6年5月9日現在)				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	「全国学力・学習状況調査」並びに本市による「児童・生徒の学力向上を図るための調査」等を通して、児童・生徒の学力の定着状況及び「学びに向かう力」等に関する意識を把握・分析する。	・東京ベーシック・ドリルの内容の、70%以上の定着を図る。	東京ベーシック・ドリル診断テストCにて、全児童の正答率が70%を上回っている。						
		・期末テストを実施して、学習内容の定着を図る。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。						
豊かな心の育成	・いじめ防止対策推進条例に基づき、いじめの未然防止及び早期発見、早期解決に向けた取組を推進する。 ・あらゆる偏見や差別をなくするため、全ての教育活動を通して人権教育を推進するとともに、学校・家庭・地域、関係機関と連携し、児童・生徒にいじめは絶対に許されないことを徹底して指導する。	・週1回の生活指導夕会に合わせて、学年内で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。 ・月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。	児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が70%を上回っている。						
		・「挨拶の励行」を推進する。(随時) ・【德育科】指導法、評価方法、指導資料や教材の開発を柱に、豊かな心の育成を図る。 ・校外学習を德育科の実践の場と捉え感謝の気持ちを言葉や態度で表せるようにする。	・児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が70%を上回っている。 ・教員の自己評価において、肯定的評価の割合が70%を上回っている。						
健やかな体の育成	児童・生徒一人一人の体力の向上及び健康の保持増進を図るため、学校・家庭及び地域が連携した体力向上策を推進する。	・検診の際に行う保健講話により意識付けを図る。 ・「ほけんだより」を発行して、保護者へ健康の保持増進について啓発する。	児童アンケートや保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合が70%を上回っている。						
		・中休みの外遊びの奨励、長縄集会、体力向上月間、学級全員遊びの機会を充実させる。 ・OJT夕会で体育指導を扱い、体育授業の充実を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	保護者や地域の方と連携・協力し、市の発展や課題について考え、問題解決に取り組む地域に根差した探究的な学習を通して、地域を知り、地域を大切にしたいを育むとともに、主体的に考え、自ら行動する力や他者と協働しながら挑戦する力等の育成を目指す。	・地域人材を活用した授業を積極的に行うことで、地域との関わりを感じさせ、地域の一員として生きていこうとする態度を養う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
		・主に【総合的な学習の時間】を活用して、地域の魅力を発信したり、社会科とも関連させたりしながら自分なりの「まちづくり」を提案する学習を行う。							

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

【経営理念】 ・夢や目標の実現に向けて、粘り強く取り組み、自らの道を切り拓く子供を育てる学校 ・自己を確立しつつ、自己肯定感をもち他者や地域社会のために力を発揮できる子供を育てる学校	評価	
	A	十分に達成している。(80%以上)
	B	概ね達成している。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
学校名：武蔵村山市立第九小学校 校長名：吉成 かおる		
【学校運営協議会・会長】 石橋 修 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和7年 2月14日（金） 第2回 なし 第3回 なし		

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	・児童の学ぶ意欲の向上と確かな学力の育成	児童の生活に関連させた教材の工夫、児童の「できた、分かった」を引き出す分かりやすい授業、基礎・基本の繰り返し学習の3点を充実させる。	児童アンケートによる授業への肯定的評価で、到達度評価を実施する。						
	・基礎的基本的な学習内容の定着と思考力・判断力・表現力の育成	①視覚に訴える教材提示 ②自分の考えを書く ③互いの考えや意見を交流し学び合う の3点に対する方策と時間の確保により思考力・判断力・表現力を育てる。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
豊かな心の育成	安心・安全で、児童が集団の中で自分のよさと力を発揮し、前向きな意欲をもてる学校生活の実現	いじめ防止に関わる授業、「学校生活アンケート」、都スクールカウンセラー面談、縦割り班活動による複数の教員の見取り等により、いじめや不登校の未然防止、早期対応に努める。	児童アンケートによる学校生活に対する肯定的評価が、前年度値を上回っている。						
		縦割り班活動（清掃、遠足、集会）などの異学年交流を通して、役割や責任をもち、集団に貢献することで自己有用感を育む場を作る。また、他者に感謝する心を育てる。	児童アンケートによる縦割り活動への肯定的評価が、前年度値を上回っている。						
健やかな体の育成	・丈夫な体とたくましい心の育成	体力テスト結果や体育授業での児童の実態を踏まえ、体育の時間は児童が自らの体力向上について課題意識をもち、改善できるよう指導する。	教職員による取組評価で、前年度値を上回っている。						
	・健康な体を意識させる日常的な指導の充実	休み時間の全校外遊びの奨励、なわとび週間、持久走週間の取組、体育委員会による休み時間の体育倉庫内にある用具の貸し出し等を実施する。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	・生活科・総合的な学習の時間をおして、自ら課題を見付け、協働的に解決していく学習を進める。	各学年において、地域を知り、地域を大切にする課題について考え、主体的に協働的に解決に取り組む探究的な学習を実施する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えた、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
		全ての学年で、地域の人材・施設・環境を積極的に導入した体験的な学習、及び保護者の協力を得た活動・学習を継続的に実施する。	教職員による成果評価が、前年度値を上回っている。						
学校裁量	地域・保護者との連携と、学校教育情報の積極的な提供	情報提供手段として一斉メール（tetoru）や学校 X（旧 Twitter）の運用強化。月に4回以上の HP 更新と学校・学級だよりの充実を図る。	保護者アンケートによる肯定的評価が、前年度値を上回っている。						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

【経営理念】 「子供と大人がいつも寄り添い、共に学び、一人一人が育ちを実感できる学校」 ア 児童一人一人が自信をもち、学びのエンジンを動かして伸びる喜びをつかむ。 ・意欲をもって学ぶ力と学習に責任をもつ感覚を育てる。 イ 朗らかな気持ち（心）で、自分も他人も大切にする。（相手の心をよむ） ・自分のよさを知り、友達のよさを実感する。 ウ 体力向上の活動にすすんで参加し、健康でたくましい体をつくる。 ・体育授業や体力向上の取組の充実により、運動の楽しさを実感する。	評価		【学校運営協議会・会長】 安部 正 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和6年10月17日（木） 第2回 令和7年 1月 9日（木） 第3回 令和7年 2月13日（木）
	A	十分に達成している。（80%以上）	
	B	概ね達成している。（60%以上）	
	C	あまり十分でない。（40%以上）	

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	学びに向かう姿勢を育てる ・個別最適・協働的な学びの推進 ・課題解決的な学習の推進 ・形成的評価の重視 ・基礎基本の定着	学校の授業と個別の時間との連携を図り、基礎・基本の定着を図る。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。 単元テストの平均点が70点を上回っている。						
		音読を国語の授業に位置付け、すらすらと音読できる児童を育成する。	すらすらと音読できる児童の割合（児童評価・教員の記録）						
		字を丁寧に書くことを指導し、習慣化できるようにする。	字を丁寧に書くことができた児童の割合（児童評価・教員の記録）						
		I C T機器（デジタル教科書・一人一台端末の活用等）の活用により、学習意欲や学習効率を高める。	学習意欲や学習効率を高められた授業の割合（教員の記録）						
		課題解決的な学習を展開し、形成的評価を行っていく。	課題解決的な学習・形成的評価を実践できた授業の割合（教員の記録）						
		教員相互が授業を参観し、事後協議を経て授業力を高める。	授業交流を年2回以上実施し、授業力がアップしたと実感できる教員の割合（教員の記録）						
豊かな心の育成	自己肯定感を高める ・道徳授業の充実 ・特別活動の充実 ・豊かな人間性を育む ・椅子を入れる指導 ・体力づくりの推進	「特別の教科 道徳」において、自他の意見を尊重しながら考えを深めさせる。	道徳科で自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりできた児童の割合（児童評価）						
		縦割り班活動において、異年齢集団と協力しながらやりぬく力を付けさせる。	縦割り班活動で協力できた児童の割合（児童評価）						
		児童が活躍できる機会を生み出し、「学校が楽しい」と思えるようにすることで、不登校を未然に防止する。	「学校が楽しい」と思う児童の割合（児童評価）						
		「いすを入れる」ことを通して、心の育成の基礎を養う。	「いすを入れる」ことを通して、心の育成の基礎を養う。						
		いじめを未然に防止し、発生した際には速やかに解消する指導を徹底する。	年3回のいじめアンケートで、いじめを受けていない児童（解消済み含む）の割合（いじめアンケート）						
体力向上	体力向上	体育授業の改善を図り、体力づくりを継続的に実施する。	「体育の時間が好きである」児童の割合（児童評価） 【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
		日常的に体を動かすことが好きな児童を増やす。	「中休みなどの外遊びが好きである」児童の割合（児童評価）						
地域に根差した学校づくり	開かれた学校をつくる ・地域資源・ボランティアの活用 ・キャリア教育の充実 ・保護者・地域と協働し共有する学校の推進	地域人材や会社、ボランティア等と連携し、地域内外への見聞を広め、まちづくりへの主体者意識を育む。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
		学校運営協議会等と連携し、ボランティア参加者を募る。	行事に対するボランティア参加の割合（学校の記録）						
		保護者会の内容や手法（オンライン含む）を充実させ、参加率60%を目指す。	保護者会の参加率（学校の記録）						
		学校・学年・学級だよりやホームページのオンライン化を進め、計画的に情報発信する。	H Pの更新率、学校・学年・学級からの情報発信を月2回程度の割合で実施（学校・教員の記録）						
		地域行事等に積極的に協力し、家庭を理解し、地域に溶け込む努力をする。	地域の行事等に教員の誰かが参加する割合（学校の記録）						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

【経営理念】 知性、徳性、体力、気力を育み、自分も他者も大切に、互いに気遣いができる人間性豊かな児童の育成を図る。	評価		【学校運営協議会・会長】 吉澤 幹郎	
	A	十分に達成している。（80%以上）	学校運営協議会（学校評価分）	
	B	概ね達成している。（60%以上）	第1回 令和6年 7月11日（木）	
	C	あまり十分でない。（40%以上）	第2回 令和6年12月12日（木） 第3回 令和7年 2月20日（木）	

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全ての児童に対する基礎的・基本的学力の定着を図るための分かる授業への改善	「授業改善プラン」による児童の実態に則した授業改善に日々取り組む。学期に1回以上の授業観察の実施により、管理職や教師同士が授業改善について指導・助言を行う。	自己申告等の授業観察及び児童への授業後の振り返り、児童観察から、理解している児童が90%を超えるか評価。						
		東京ベーシック・ドリル等を活用して特に算数の定着に課題が見られた単元について授業で繰り返し学習し、地域未来塾（雷塾）、自主学習への取組等を継続的に行う。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
豊かな心の育成	人権教育の推進のため教育活動全体で道徳教育の取組を行う。また、特別支援教育の推進に努める。	「全校道徳の日」を年間6回設定し、全校で同じ内容項目について考えられるように計画、実践する。保護者にも通知し、家庭でも話題にしてもらうことで道徳的価値について考えられるようにする。	学校評価アンケートにより、人権についての項目での80%が肯定的になること						
		特別支援教育コーディネーターによる役割を明確にし、校内委員会を月に3～4回実施し、校内支援体制の充実を図るとともに具体的な支援策を実践できるようにする。	学校評価アンケートにおける特別支援教育における項目での80%が肯定的になること。						
健やかな体の育成	体力の向上を目指し、健康な体を育むようにする。	中休みは原則外遊びをさせ、たくましい体をつくる。日頃から、手洗いうがいや換気の呼びかけを行う	休み時間や休み時間後などの観察で、児童が健康に気を付けて行動している。						
		校内のOJT等により体育科の授業の充実を図り、持久走月間、体育集会等を設定し、体力向上に向けた全校的な取組を推進する。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、保護者・地域と連携・協力し、地域に根ざした探究的な活動の推進	まちづくり学習において、地域の物的及び人的資源を活用した教育活動を計画的に進める。第三中校区の小中連携を進めながら、地域における交流体験、交流学习を実施する。	学校評価における地域との連携の項目で、80%が肯定的となること。						
		各教科や生活、総合的な学習の時間において、地域の人々や環境、地域の歴史等について学習していくことを通して、地域のよいところや課題に気付けるような単元の設定を行い、実施する。また、2月までに地域や保護者の方に自分達の考えや取組を発信する時間を設定し、実施する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
学校裁量	「誰もがリーダー」を合い言葉に、主体的に仕事に取り組む人材が育つ「チーム雷塚」の創成	「任せ・見守り・育てる」ことで、自ら考え、すすんで実践していく主体的な教職員を育てる。教え、教わる協働的な職員室の雰囲気作りを行う。	・教員及び保護者への学校評価アンケートから、職場への満足感や教職員の外部への対応などの項目で80%の肯定的意見。						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立小中一貫校村山学園 統括校長名：井内 潔

【経営理念】 施設一体型小中一貫校の特色を生かし、多くの人との関わりの中で様々なコミュニケーションの場を通じて自立した一人の人間としての「人間力」を育成する学校を目指す。 (1) 義務教育9年間の系統的・継続的な指導を見通して、人間力の育成を図る学校 (2) 施設一体型の特色を生かし、「理想とする中学校卒業時の生徒像」の具現化に向け、小・中学校教員の「指導観の一貫」を目指す学校 (3) 地域・家庭との協働により、コミュニティ・スクールとして信頼される学校			評価		【学校運営協議会・会長 羽鳥 直美】 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和6年7月12日（金） 第2回 令和6年11月21日（木） 第3回 令和7年2月14日（金）
			A	十分に達成している。（80%以上）	
			B	概ね達成している。（60%以上）	
			C	あまり十分でない。（40%以上）	

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全児童・生徒の基礎的・基本的な学力の確実な定着と学力向上	一人1台端末などの ICT 機器を有効活用するとともに、デジタル教科書やデジタル教材を効果的に活用する。	一人1台端末の活用により学力の向上を実感したと回答した児童・生徒の割合が80%以上						
		各教科の学習において、問題練習を行う時間を設定し、問題に繰り返し取り組む。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）以上						
豊かな心の育成	人権尊重教育に基づいた、いじめ防止	児童・生徒の生活指導上の情報共有を図るとともに、いじめ防止策を講じ、いじめの早期発見、早期対応を行う。	学校に安心して登校している児童・生徒及び安心して登校させられると回答した保護者の割合が90%以上						
	生命を尊重する心を育む道德教育の推進	道徳科の学習において、内容項目 D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の指導を重視して実施する。	動植物など生命ある物を大切にしていると回答した児童・生徒の割合が90%以上						
健やかな体の育成	進んで運動しようとする意識の醸成	休み時間等の外遊びを奨励し、遊びの中で身体を動かす機会をつくる。	すすんで運動しようとしている児童・生徒の割合80%以上						
	児童・生徒の体力の向上	なわとび週間や持久走週間、持久走記録会、大縄大会などの取組を行い、運動習慣の確立を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上、または総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上						
まちづくり学習の充実	武蔵村山市や地域に愛着をもち、市の発展や課題について考え、問題解決に向けて取り組む児童・生徒の育成	各学年が実施する学習において、武蔵村山市の特長などについて気が付かせ、新聞などにまとめる。また、やってみかんパニーの活動を通じて、市内のみかん農家などとの関りを深め、武蔵村山市の特産についての理解を深める。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的回答が70%以上						
学校裁量	講師や地域人材を活用した学習の推進	授業において地域人材を活用し、学習支援に当たること、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	課題解決に向けて、有効に講師や地域人材の活用が図れたと感じる教員の割合が80%以上						
	学校からの情報発信による家庭・地域との連携	学校だより、学年だより、学級だより及びホームページや X を活用し、計画的に学校の情報を発信する。	学校の情報発信に満足していると回答した保護者の割合が90%以上						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校 校長名：川口 周作

【経営理念】「学ぶ楽しさ」「人とのかかわる楽しさ」「元気に育つ楽しさ」を目指して （１）体験活動や交流活動を通して学びに向かう力を育む （２）多様な考えを認め合う中で自分の考えや思いを伝える力を育む （３）健康・体力を育む	評価		【学校運営協議会・会長】 南谷 尚 学校運営協議会（学校評価分） 第１回 令和６年 ６月１３日（木） 第２回 令和６年１２月１４日（土） 第３回 令和７年 ２月２７日（木）
	A	十分に達成している。（80%以上）	
	B	概ね達成している。（60%以上）	
	C	あまり十分でない。（40%以上）	

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	「児童が主体となる授業の工夫と改善」 ・どの授業でも「じっくり考える」「発表し交流する」場面を創り、言語活動の充実を図る。 ・「考える楽しさ」「わかる楽しさ」「できるようになる楽しさ」を感じさせ、学習習慣や基礎的な学力を身に付けさせる。	生活時程のチャレンジタイム（２校時後の１５分間）において、計画的に漢字や計算・読書活動・学習の補充などを実施する。	学校評価アンケートの「基礎学力が身についた」「学習意欲」の項目について、肯定的な回答を７０％以上。						
		毎週、金曜日の放課後に各クラスにおいて数名の取り出し学習（教科学習の学習支援）を実施する。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。						
豊かな心の育成	「温かい関わりと思いやりを重視した指導」 ・人と関わる多様な活動の中で児童が安心できる環境を作る。 ・児童の心に寄り添う生活指導によっていじめや問題行動、学校不適応の早期発見を図る。	特別活動の「学級活動・たてわり班活動」において、課題解決を図るための合意形成を図ったり、意思決定したりする中で「話し合い」を活動の中心に置く活動を行う。	学校評価アンケートの「温かい関わりと思いやりの心が育っている」の項目について、肯定的な回答を７０％以上。						
		道徳の学習において、重点指導として「自立心や自律性」「生命を尊重する心」「他者を思いやる心」の価値項目について学期１回以上行う。	ふれあい月間の実施後調査（１１月）において、いじめや生活指導関連において、肯定的な回答を６０％以上。						
健やかな体の育成	「病気や怪我を減らすための健康増進・感染防止の意識向上」 ・「体を動かす楽しさ」「挑戦する楽しさ」「健康に生きる楽しさ」を感じさせる。 ・心身ともに健康で最後までやり抜く児童の育成を図る。	・３年生以上では、食や睡眠を主に「健康」に対する意識を高める保健の学習の工夫と改善を行う。 ・全校児童の理解啓発とする教育活動（ゲストティーチャー招聘）を実施	学校評価アンケートの「健康を意識した生活習慣を送っている」の項目について、肯定的な回答を７０％以上。						
		・全学年において体育学習の工夫と改善を行う。 ・全校が運動の楽しさを味わうための体育的活動の工夫をする。（学期１回実施）	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「Ｃ」以上の割合が６０％以上又は総合評価「Ｃ」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	「総合的な学習の時間を中心に学習を進め、各学年のねらいにそった学習活動」 学年末においては、まとめと報告する会を設け、自己の振り返りや今後のまちづくりについて考えていくことができるように計画的に進める。	学校だよりや学年からのお知らせ等で「まちづくり学習」の学習状況や取組について、学期に１回または月に１回程度、保護者に情報提供していく。	学校評価アンケートの「各学年の『まちづくり学習』について情報発信をしている。」の項目について、肯定的な回答を７０％以上。						
		学年末の授業公開を全学年が「まちづくり学習」の報告・発表の授業とする。報告や発表を参観後、保護者や地域の方から感想や意見をいただく。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を７０％以上。						
学校裁量	校内研究「運動の楽しさを味わい、健康意識を高めていくむさなっ子チャレンジ」の研究主題を基に、「体育」「食育」「生活習慣」「体育的活動」の４つを柱に健康意識を高める。	本校の児童の健康意識を高め、運動すること得られる価値を見いだすために「体育」「食育」「生活習慣」「体育的活動」の４つの分科会で、それぞれが課題の工夫と改善の授業や取組を行う。また、家庭との連携を図る。	校内研究の児童アンケートにおいて、「体育」「食育」「生活習慣」「体育的活動」に関する項目でそれぞれ肯定的な回答を７０％以上。						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校 校長名：福泉 宏介

【経営理念】小中連携を通して「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を図る。
○ 生徒の生命を第一に考え、生徒にとって心身ともに安全で安心な学習環境を整える。
○ 自他を大切に作る心を持ち、いじめや嫌がらせ許さない指導を徹底する。
○ 基礎的・基本的な知識・技能の定着と学習意欲の向上、探究的な学びを目指す。

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

【学校運営協議会・会長】			
学校運営協議会（学校評価分）			
第1回	令和6年	4月25日	(木)
第2回	令和6年	11月21日	(金)
第3回	令和7年	2月19日	(水)

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度 (%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	・ 言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に学習に取り組む態度を育てる。 ・ 学習の習熟が不足する生徒に、放課後や長期休業日を利用して補充的な学習を実施する他、日常の小テストや自学ノートを活用して基礎学力を高める。	各教科等の授業においてねらいを明示して学習に見通しを持たせるとともに、終了時に振り返りを行うことでその時間に学んだ内容の定着を図る。補習教室を行うことで、確実な定着に向けた支援を行う。	学校評価アンケート（生徒・保護者）の「学校は生徒に分かりやすい授業を行い、生徒の基礎・基本の定着に力を尽くしている。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
		武蔵村山チャレンジや日常の小テスト等の取組により基礎・基本の徹底とその活用による思考力・判断力・表現力を養い、理由を添えて自分の考えを書いて説明できる力を育む。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
豊かな心の育成	・ 自他を大切に作る心を持ち、いじめや嫌がらせを許さない指導を徹底させるとともに、思いやりの心を育て、偏見や差別をなくすために人権教育・道徳教育を推進する。 ・ いじめ等の問題行動や不登校の未然防止に組織的に取り組み、「居心地のよい学校づくり」を推進する。	道徳授業において教員がローテーションにより授業を行い、全教員が道徳教育への関わりを深めるとともに、教科横断的・相乗的な指導を行うことで、生徒の心の成長を促す。	学校評価アンケート（生徒、保護者）において、「道徳の授業で心の成長を感じることがある（促している）。」の項目で肯定的な回答を70%以上						
		定期的なアンケートの結果の分析・活用を行うとともに、生徒の様子の共通理解を行い、教育相談機能を活用しながら一人一人を大切にする生徒指導の徹底を図る。	学校評価アンケートの「担任やスクールカウンセラーは、一人一人を大切にする指導を行っている。」の項目で、肯定的な回答を65%以上						
健やかな体の育成	・ 生徒の安心・安全を第一に考え、安全な学校生活のための共通理解を図り、組織的に対応する。健康的な生活を送るための規則正しい生活や食生活の充実について、全教員で指導する。 ・ 保健体育科の授業や体育的行事をはじめ、様々な取組から生徒の体力向上を図る。	保健・給食部を中心に生徒が心身ともに健康的な生活を送ることができるよう、全教員で日々の指導を行うとともに、委員会活動を通して生徒の自主的な行動を促す。	学校評価アンケートの「身体の健康と安全について注意して生活している」「生徒の安全・健康面への対応をしっかりとしている」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
		保健体育科の授業における指導をはじめ、運動部活動、運動会の自主的な取組やランニング・ウォーキングイベント等の実施により、生徒の体力向上の意欲を高める。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	各教科、総合的な学習の時間に「まちづくり学習」を設定し、保護者、地域と連携して探究的な学習を進め、よりよい地域づくりのために主体的に考え、行動する態度を育てる。	総合的な学習の時間において「自分の生き方を発見する」を全学年テーマとし、職業理解、体験的課題解決、伝統・文化理解や教科横断的な学習を通して、地域の一員として現代的な諸課題に対応する資質・能力を育てる。	学校評価アンケートの「職業調べ、進路学習等を通して将来の生き方や進路について考えるようになった。」の項目について、肯定的な回答を80%以上						
		学年ごとに、地域についての調べ学習やテーマ別グループ学習、職場体験等を行う。また、地域のPRについても提案、プレゼンを行う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
学校裁量	小中一貫校基準「自分の考えを、理由を添えて説明できる生徒」を、小中連携による学習指導や行事の実施を通して育てる。	・ 話し合い活動を通して小中一貫校基準を育む授業のあり方について小中合同で研究を行い、日々の指導に生かす。 ・ 行事等の小中連携を通して、自分の考えをもち主体的に行動する生徒を育む。	○ 学校評価アンケート（生徒）において「私は、自分の考えについて理由を添えて述べるができるている。」の項目について肯定的な回答を70%以上 ○ 学校評価アンケート（生徒、保護者）の小中連携の項目において肯定的回答70%以上						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

【経営理念】 （１）基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を目指し、授業の充実・改善を図り、心身ともに健やかな生徒が育つ学校 （２）地域との連携を図り、地域から学び、地域に貢献できる生徒が育つ学校 （３）道徳的心情や道徳的实践力を身に付けることを目指し、心豊かな生徒が育つ学校	評価		学校名：武蔵村山市立第一中学校 校長名：島田 治	
	A	十分に達成している。（80%以上）	【学校運営協議会・会長】小泉 亨	
	B	概ね達成している。（60%以上）	学校運営協議会（学校評価分）	
	C	あまり十分でない。（40%以上）	第１回 令和 6 年 5 月 2 1 日（火） 第 2 回 令和 6 年 1 1 月 1 9 日（火） 第 3 回 令和 7 年 2 月 1 4 日（金）	

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	① 生徒の基礎学力の定着 ② 教師の授業力の向上	① 全ての教科、単元において他者との対話的な学びの場を取り入れる。 ① 夏休み補習教室の実施。第三学年を対象とした地域未来塾に新たに実力アップ講座を開講。	【全校共通】市学力調査にて、（小 5 ・中 2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小 4 ・中 1 時）を上回っている。 ① 学校評価の授業以外の学習機会があるという質問項目で肯定的に捉える生徒 9 0 % 以上						
		② 全教員が学習の内容やねらいに応じて ICT を活用する。 ② ICT 支援員や研究主任による研修を学期に 1 回以上実施。	② 学校評価の授業の分かりやすさに関する質問項目で肯定的に捉える生徒を 8 0 % 以上						
豊かな心の育成	① いじめの撲滅 ② 生徒の規範意識の醸成	① 年 1 回以上、いじめについて考えたり取り組んだりする活動を実施。 ① 『人権教育プログラム』を活用した授業の実施。教員への研修の実施。	学校評価の学校生活、生き方、悩みが生じたときの対応に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を 9 0 % 以上						
		② キャリア教育や進路指導の中で礼儀作法について学ぶ場を設定。 ② 校区の小学校と連携したあいさつ運動を各学期で実施。	学校評価の挨拶や自治的活動、生き方に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を 9 0 % 以上						
健やかな体の育成	生涯スポーツにつながる体育科の授業の充実	・珍しいスポーツ（ラート）を体験する機会を設けたり、市民駅伝競走大会と体育科の持久走を関連させたりするなどカリキュラムマネジメントに取り組み、生徒の運動に対する意欲を高める。 ・ 2 種目以上の競技で専門家を講師に招いた体育の授業の実施。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小 5 ・中 2）において総合評価「C」以上の割合が 6 0 % 以上又は総合評価「C」以上の割合が令和 5 年度調査との比較で向上している。 学校評価の運動やスポーツに関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒 7 0 % 以上						
まちづくり学習の充実	① 総合的な学習の時間の充実 ② 地域への愛郷心がある生徒の育成	① 学校のテーマ「自らの生き方を考える」と学年のサブテーマ「村山とともに生きる」（一年）「村山から外へ」（二年）「未来へ向かって」（三年）を関連させた授業の実施	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を 7 0 % 以上						
		② 教科の学習や行事等において地域の人的資源を活用した活動の実施。クリーン作戦やさくら祭りなど地域の行事への生徒の参加。	学校評価の地元へ愛着に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を 7 0 % 以上						
学校裁量	① 家庭学習の定着 ② 開かれた学校の推進	① 検定（英検・漢検等）や定期考査（年間 5 回）実施することで、短期の目標を持ちやすくするとともに、学習計画表等の作成指導を徹底する。	学校評価の家庭学習の習慣に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を 8 0 % 以上						
		② tetoru や X（旧 Twitter）を活用した情報配信の強化。	月に 1 回以上配信する。学校評価で保護者による各項目の「分からない」を 2 0 % 以下						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

【経営理念】 ① 生徒一人一人を大切にする ② 生徒の良さ、可能性を伸ばす ③ 教師の持ち味を生かし、勝負する	評価	
	A	十分に達成している。(80%以上)
	B	概ね達成している。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)

学校名：武蔵村山市立第三中学校	校長名：飯星 健司
【学校運営協議会・会長】 新谷 貞典	
学校運営協議会（学校評価分）	
第1回	令和6年10月25日（金）
第2回	令和6年12月13日（金）
第3回	令和7年 2月14日（金）

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	【中期】生徒の基礎学力の定着と向上を図る	・一人1台端末を効果的に活用し、主体的な学びの充実と確かな学力の育成を図る。 ・補充的学習（地域未来塾等）の実施。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
	【中期】家庭学習の習慣化と定着を図る	・家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。 ・一人1台端末等で学習環境を整える。	年5回アンケートを取り、学習時間が1時間以上の生徒が90%以上						
	【中期】読書活動とNIE教育を推進し、言語能力向上を図る	・朝学活動後、朝読書を行う。また、図書委員会を中心に、読書啓発を行う。 ・社会科を中心にNIEを実施する。	年間読書の冊数を平均3冊以上 新聞投稿者が前年度以上						
豊かな心の育成	【中期】いじめ撲滅への取組	・年3回いじめに関するアンケートやいじめに関する授業の実施 ・SNSに関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う。	生徒、保護者によるアンケートで安心して登校できるが90%以上						
	【中期】特別な支援を要する生徒への対応	・SC、SSW等と協働し、教育相談を充実させる ・サポート教室の充実とチャレンジクラスの開室、充実を図り、不登校を減少させる	教員アンケートや対象の生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が80%以上 不登校出現率が前年度以下						
	【短期】あいさつの励行と礼儀・マナー等の向上	・市の礼儀読本等を活用し、礼儀やマナーを身に付けさせる。	学校評価アンケートで肯定的な回答が80%以上						
健やかな体の育成	【中期】基礎体力の向上を図る	・体育の授業時における基礎体力づくりやミニオリンピックの実施。 ・市の駅伝大会等への参加。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
	【短期】食育を推進し、健康に過ごす意識の向上を図る	・「弁当の日」や「食育の日」を実施し、食育を推進する。 ・昼の放送による食材等の紹介	生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が80%以上						
まちづくり学習の充実	【中期】全学年でゼロカーボン学習を推進し、環境保全の意識を高め、実践する。	・各学年行事でゼロカーボン学習の取組を行う。（1年：川越体験学習、2年：東京体験学習、3年：修学旅行等） ・長期休業日を生かし、全学年でCO2削減の取組を行う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
	【短期】市内・保護者・地域へ取組を周知する	・学級・学年発表を保護者・地域へ学校・学年だより等で発信し、その取組を周知する。	保護者、地域アンケートで肯定的な回答が80%以上						
学校裁量	【短期】小中一貫教育の推進	・校区合同研修会を年間2回開催し、2学期に研究授業と協議会を実施。 ・「ふれあいフェスティバル」を実施し、地域と児童・生徒の交流を図る。また、キャリア教育交流、委員会連携の実施。	教員、生徒アンケートで肯定的な回答が90%以上						
	【中期】基礎的・基本的事項を向上させ、自己の将来について考える	・各種検定やコンクール等に自主的に取り組み、学習意欲の向上と個性の伸長を図る。	各種検定資格を生徒の40%以上がもっている。また、各種コンクールに生徒の50%以上が応募した。						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

【経営理念】 （１） 一人一人の生徒を大切にする （２） 生徒の良さ、可能性を伸ばす （３） 教師の持ち味を生かして勝負する	評価	
	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
学校名：武蔵村山市立第五中学校		校長名：榎戸 千代子
【学校運営協議会・会長】 堀内 一弘		
学校運営協議会（学校評価分）		
第1回 令和6年 7月 4日（木）		
第2回 令和6年11月 7日（木）		
第3回 令和7年 2月13日（木）		

項目	計画・取組			自己評価（令和 年 月 日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全生徒に対しての基礎学力の定着、家庭学習の習慣化を図る	「学習の手引き」や「学習計画表」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。各教科で家庭学習課題に継続して取り組ませる。	生徒アンケートにおいて、家庭学習に取り組んでいる生徒が75%以上						
		地域未来塾事業や都立武蔵村山高校の生徒の学習サポートを活用し、定期考査前や放課後、長期休業中に補充教室を実施する。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。						
豊かな心の育成	生命尊重や思いやりの心を育成し、仲間を大切にすることができる生徒を育てる	特色ある教育活動推進校として、生命尊重や思いやりの心の育成をテーマに講演会や授業を行う。	生徒、保護者アンケートにおいて生命尊重や思いやりの心が感じられたと答えた割合が75%以上						
		年 3 回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談、人権教育に関する授業を行う中で生徒が主体的にいじめ防止の取り組みを行うように推進する。	教員の自己評価や、生徒、保護者のアンケートの中でいじめ防止に取り組み、いじめがあったときは早期に対応しているという答えが75%以上						
健やかな体の育成	基本的生活習慣を見直し、高齢者、障害者理解を深め、身心ともに健やかな生徒を育てる。	パラリンピアンなどを講師に招き、豊かな国際感覚を養うとともに、高齢者疑似体験や交流を通して、高齢者・障がい者理解やボランティア活動を推進する。	体験活動や交流活動を年間1回以上行う。						
		基本的な生活習慣を確立し、健康に過ごす意識を高めるために、歯科講話や歯磨きキャンペーン、給食の残食ゼロウィークに積極的に参加させる。運動会への取り組みを通して、自分自身の生活と、身の周りの運動との関わりを考えさせる。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。						
まちづくり学習の充実	地域を知り、地域を大切にすることを育て、地域とともに生きていることを自覚し、自ら進んで地域に貢献できる生徒を育てる。	創設11年目を迎える五中レスキュー隊を中心に、北多摩西部消防署と連携し、地域防災訓練活動を行う。また、小学校や地域へのボランティア活動に積極的に参加させ、地域に貢献できる人材の育成を図る。	生徒、保護者、地域へのアンケートの中で、地域のことを意識して活動できているという生徒が75%以上						
		地域を知り、地域を大切にすることを育て、地域社会に貢献する生徒を育成するため、地域について調べ、地域と連携した、五中フェスティバルや職場体験、プロから学ぶ会を開催する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上						
学校裁量	自他の生命を尊重し、他の思いやる心を育てるとともに、自ら考え、共に学び、積極的に社会に貢献する態度を養う。	特別の教科 道徳の授業を通じて、全学年重点項目である「B(6)思いやり、感謝」と「D(19)生命の尊さ」に係る授業を学期に1回以上行い、自他の生命を尊重し、他を思いやる心を育てる。	生徒の道徳振り返りワークシートにおいて、授業の内容を深く考えることができたと答える生徒が75%以上						

※ 到達度＝ 達成値／目標値

～いきいきわくわく狭山丘陵ウォーク～
第 47 回武蔵村山市歩け歩け大会の開催結果について

1	主 催	武蔵村山市教育委員会		
2	主 管	武蔵村山市スポーツ推進委員協議会		
3	協 力	一般社団法人武蔵村山市体育協会 武蔵村山市地区スポーツ協力員連絡会		
4	実 施 日	令和6年5月19日（日）午前9時～9時30分受付・順次スタート		
5	コース及び距離	野山北公園運動場（スタート）→出会いの広場→六地蔵→猿久保→六道山→猿久保→六地蔵→出会いの広場→野山北公園運動場（ゴール）約6.5km		
6	参 加 状 況	計206人 最高年齢87歳 最少年齢5歳 内訳は、別紙「歩け歩け大会 参加者一覧表」参照		
7	最終ゴール者	午前11時15分		
8	完 歩 者	206人		
9	ケ ガ 人	なし		
10	協 力 者	スポーツ推進委員	11名	
		地区スポーツ協力員	16名	
		体 育 協 会	2名	
		合 計	29名	

第47回歩け歩け大会 参加者一覧表

別紙

No.	性別		年齢別									形態			申込書		
	男	女	12歳以下	13～15歳	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	市民	在勤	在学	事前	HP	当日
1	1										1	1					1
2	1							1				1			1		
3		1					1					1			1		
4	1		1									1					1
5	1		1									1					1
6	1							1				1					1
7		1						1				1					1
8	1										1	1			1		
9		1						1				1					1
10	1			1								1			1		
11	1								1			1					1
12		1									1	1			1		
13		1									1	1			1		
14		1									1	1			1		
15		1								1		1			1		
16		1		1								1			1		
17	1									1		1			1		
18		1									1	1			1		
19		1									1	1			1		
20		1									1	1					1
21	1										1	1					1
22		1									1	1			1		
23		1									1	1			1		
24	1		1									1					1
25		1	1									1					1
26	1						1					1			1		
27		1							1			1					1
28		1							1			1				1	
29	1									1			1		1		
30	1									1		1					1
31		1							1			1					1
32		1									1	1			1		
33		1						1				1					1
34	1		1									1					1
35		1	1									1					1
36	1							1				1					1
37		1						1				1					1
38		1		1								1			1		
39	1								1			1					1
40		1							1			1					1
41		1							1			1					1
42	1										1	1					1
43		1	1											1	1		
44		1						1				1			1		
45	1								1			1			1		
46	1							1				1					1
47	1		1											1			1
48	1		1									1					1
49		1						1				1					1
50	1									1		1					1
51	1							1				1				1	
52		1	1									1				1	
53		1	1									1			1		
54		1						1				1					1
55	1										1	1					1
56		1	1											1		1	
57	1		1									1			1		
58	1		1									1			1		
59		1						1				1			1		
60	1		1											1	1		
61		1	1											1	1		
62		1					1					1			1		
63		1		1										1	1		
64	1							1				1					1
65	1			1										1	1		
66	1		1									1			1		
67	1							1				1			1		
68	1		1									1			1		
69	1								1			1			1		
70		1	1									1			1		
71		1	1									1			1		
72	1								1			1			1		
73		1							1			1			1		
74	1		1											1	1		
75	1		1											1	1		
76	1							1				1					1

第47回歩け歩け大会 参加者一覧表

別紙

No.	性別		年齢別									形態			申込書		
	男	女	12歳以下	13～15歳	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	市民	在勤	在学	事前	HP	当日
77		1					1					1					1
78	1										1	1			1		
79		1									1	1					1
80	1								1			1				1	
81		1							1			1				1	
82		1									1	1					1
83		1						1				1					1
84		1	1									1					1
85	1									1		1					1
86		1									1	1			1		
87	1							1				1					1
88	1		1									1			1		
89		1	1									1					1
90		1										1					1
91	1									1		1			1		
92	1				1									1	1		
93	1			1										1	1		
94		1									1	1					1
95		1							1			1					1
96	1			1										1	1		
97		1	1											1	1		
98		1	1											1	1		
99	1		1									1			1		
100	1		1											1	1		
101	1		1											1	1		
102	1		1											1	1		
103	1									1		1					1
104		1						1				1					1
105		1						1					1			1	
106	1							1				1					1
107		1	1											1	1		
108	1		1											1	1		
109		1								1		1			1		
110	1										1	1					1
111		1								1		1					1
112		1							1			1			1		
113		1	1									1			1		
114	1											1					1
115	1		1											1			1
116	1								1			1					1
117		1				1						1					1
118	1				1							1					1
119		1							1			1			1		
120		1	1									1			1		
121	1		1											1			1
122		1						1				1					1
123	1			1								1					1
124		1							1			1				1	
125	1									1		1				1	
126		1	1									1					1
127		1	1									1					1
128		1						1									1
129		1	1									1					1
130	1		1									1			1		
131	1							1				1					1
132		1						1				1					1
133	1		1									1			1		
134		1	1									1					1
135		1	1											1			1
136	1		1											1			1
137	1							1				1					1
138		1						1				1			1		
139		1									1	1			1		
140		1						1				1			1		
141		1							1			1			1		
142		1								1		1			1		
143		1							1			1					1
144		1				1						1					1
145	1								1			1					1
146	1		1									1			1		
147	1							1				1					1
148	1		1									1					1
149		1						1				1					1
150	1							1				1					1
151		1	1											1			1
152		1	1											1	1		
153		1	1									1			1		

第47回歩け歩け大会 参加者一覧表

別紙

No.	性別		年齢別									形態			申込書		
	男	女	12歳以下	13～15歳	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	市民	在勤	在学	事前	HP	当日
154	1		1									1					1
155		1					1					1					1
156	1		1											1			1
157		1						1				1					1
158	1							1				1			1		
159		1						1				1			1		
160	1								1			1			1		
161	1								1			1					1
162		1						1				1					1
163		1	1									1			1		
164		1		1								1			1		
165		1						1				1			1		
166		1		1								1					1
167		1	1									1					1
168		1						1				1					1
169		1						1				1					1
170		1	1											1	1		
171	1		1											1	1		
172	1							1				1					1
173		1						1				1			1		
174		1	1									1			1		
175	1							1				1			1		
176	1							1				1					1
177	1			1										1			1
178		1	1									1			1		
179		1								1		1				1	
180		1							1			1					1
181		1								1		1					1
182	1		1								1			1			1
183		1				1						1					1
184	1							1				1					1
185		1	1											1	1		
186	1		1											1	1		
187		1	1									1					1
188		1	1									1			1		
189	1		1									1			1		
190		1							1			1					1
191		1							1			1					1
192		1								1		1					1
193	1									1		1					1
194	1										1	1					1
195		1						1				1			1		
196		1				1						1					1
197		1						1				1					1
198	1		1											1			1
199		1								1		1			1		
200	1		1									1			1		
201		1						1				1			1		
202		1	1											1			1
203		1	1											1			1
204	1		1											1			1
205		1					1					1					1
206	1						1					1			1		
合計	91	115	69	11	2	4	10	43	26	14	25	167	2	36	91	10	105
	206		204									205			206		

年齢無記入者2名

無記入者1名